

第5学年 社会科の実践

1 単元名 これからの食料生産と食生活

2 単元目標

食料自給率の低下、食生活の変化、食料の安全性、環境への配慮など、今日の食料生産を取り巻く現状と問題について知り、これからの食料生産のあり方について考えをもつことができるようにする。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題・・・子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成

手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

ブロックテーマ 「仲間への理解、自立する自分」

・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

<聴く・話すについての指導>

「聴くこと」については、静かに友だちの話を聴くことができる子が増えてきた。前期までは、途中で話し始めてしまったり、自分の意見を言ったら終わりになってしまったりと友だちの考えを大切にできない児童が多かったが、クラスで決めた聴く・話すのルールを常に意識できるようにすることで、改善してきた。しかし、静かにしているだけで全く反応をしなかったり、理解しようとしたりする温かい聴き方ができずにいる。黙って聴いているだけではなく、自分の考えと比べながら聴いたり、分からないことは聴き返したり、自分の考えとつなげていくこと、より深めていくことを大切にするように声を掛けている。「話すこと」については、いまだに担任を見て話す子がいる。声の大きさが小さかったり、うまく意見をまとめられずにだらだらと話してしまったりと相手に自分の考えを伝えたい、分かってもらいたいという意識が低い。なるべく短く、分かりやすく話せるようノートに考えをまとめてから話し合いをしたり、数人で伝える練習をしてアドバイスし合ったりする活動を取り入れたりしている。考えがうまく伝えられなかったとしても「こういうことが言いたいんだよね。」と友だちの言いたいことを理解しようとし、温かく聴くことができる雰囲気が高めることで、誰もが臆せず自分の意見を出せるようにしているところである。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

代表委員会の提案やクラスの係活動のイベントなどで話し合う機会はたくさん設けてきた。議長を立て、自分たちで話し合いの流れを整理しながら進めていく中で、一人ひとりが友だちの考えを一生懸命聞き、それについて意見を出したり、付け足したりと参加しなければいけないという意識が高まってきた。考えがなかなか思い浮かばないときは、「少し時間とらない?」「少し周りと相談しない?」と進んで友だちと関わり合おうとする姿が見られている。また、周りの考えを否定してばかりだった児童も「その考えも良いけど、でもこういう理由で私はこう思います。」と相手の意見を大切にしたい話し合いの仕方が出来るようになってきた。ただ、それがまだ普通の授業に生かされておらず、「どうしても解決したい。」「自分一人ではどうにもならない。」という学習場面でないと関わり合いがまだ薄い。課題が難しすぎても学習面に困難さがある児童はついていけなくなってしまう。そのため、みんなが参加できる土台を用意した上で、話し合えるような学習課題になるよう努力している。今回は社会の学習でひびき合いの姿を目指す。様々な考えが出てくるであろう課題であり、その考えがどうして輸入に頼らないことに繋がるのかをみんなが理解できるよう、友だちの意見を大切に、どうしてそう考えたのかをみんなで見極めようとする姿を目指したい。

4. 単元と指導について

<単元について>

本単元は、学習指導要領5年生の内容(1)の「様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること」に基づいて設定されており、米作り・水産業など我が国の食料生産に関する学習のまとめにあたる。私たちの現在の豊かな食生活を考えたとき、輸入食料を抜きにして考えることは出来ない。食料自給率は近年39%と横ばい状態が続いており、今後世界的に人口が増えて生産が追いつかなくなったり、干ばつや伝染病など何かしらの理由で外国から輸入ができなくなると日本国民の食生活は大きな影響を受けてしまう。こうした日本の食料生産に関する様々な問題を知り、一消費者として食料生産に関して考えていく必要がある。

児童はこれまでに学習した「米作りのさかんな地域」の単元で具体的な事例を通して、我が国の食料生産の様子や特色を学習してきた。水産業についてはまだ学習していないものの、米の生産が国民の食生活を支えていることや、従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについても理解している。また、米の生産量や消費量の減少、それに伴う従事者の減少や耕作放棄地の増加などの問題点についても学んでいる。そこで本単元では、生産者と消費者のつながりの大切さを理解し、これからの食料生産のあり方を考えられるようにしたい。輸入に頼っている今の食料生産をどうしていけばよいのかを考えていくのは児童にとって身近ではなく、自分の問題として捉えにくい大きな問題ではあるが、日本の現状や今後の世界の状況をグラフや資料などから読み取ることで、食料生産が自分たちの問題であることをしっかりと捉えられるようにしていきたい。また、食の問題に関しては、TPP問題や他国との貿易のバランスなど社会情勢も反映していかなければならないことが多々ある。しかし、本単元では深くは踏み込まず、初めての食料問題の出会いとして、消費者として食に対して少しでも意識を変えていけるようにし、今後中学校・高校で学んでいく学習の素地となる単元として位置付けたい。素地を身につけることで、今後様々な社会問題も絡めて自分たちの食生活について考えていくきっかけとなる単元になるだろうと考えた。

<指導について>

児童は、豊かな食生活を送っており、今後食料面で困ることが起きるとは想像もしていない。また、米作りや工業生産の学習から、日本は農業でも工業でも様々な技術で世界から信頼される存在であると考えている。そんな児童に「食料生産が人口増加に追いつかない」という資料を提示することで、世界が今後さらに人口が増加していくこと、農作物を栽培する環境が破壊されつつあることに気付かせる。本時では、「なるべく輸入に頼らないで食べていくためにはどうしたらよいか。」という課題について考えていく。世界の人口が今後増えていく中で、食料危機が訪れるかもしれないことを知っても、食べ物が溢れている日本には無縁のことだろうと感じる児童も少なくない。しかし、日本の食料自給率のグラフから食料の輸入状況を知り、今後様々な要因でその輸入が途絶えてしまうかもしれないと知れば、「大変だ。」「このままで大丈夫なのかな?」と感じるであろう。工業製品と違い、その時の気候などにより生産量は大きく変化し、また国の情勢によっても輸出できる量は変化する。そうしたとき何らかの理由で輸入がストップしたら日本はどうなるのかを考えることで、「このまま輸入に頼ってはいけなのではないか。」「自給率を上げていかなければならないのではないか。」と自然に感じるができると思う。そのため、児童にとってこの課題は、みんなで考えていきたい、知りたいと思える課題になると考えている。日本の食料自給率については、全員が共通理解をもって話し合い活動に参加できるよう、グラフ・資料を精選し活用しておさえていく。現状をきちんと知り、疑問や気付きが出てくる中で、「みんなはどんな考えをもっているのだろう。」「少しでも輸入に頼らないようにするには、他にどんな手立てがあるのだろう。」という思いが生まれると考える。友だちの意見を「どうしてそう考えたのか。」考えながら聴くことで、「なるほどね!」という思いを持つことができ、難しいからこそ、一人では得ることの出来ない学び合いからの充実感を味わうことができると考える。本時の展開としては、主に、生産面・消費面に分け、「日本で食料を作ったらいい。」という単純なものから、「農業に就く人を増やす。」「科学技術の力で生産量をあげる。」「耕地放棄地を使う。」など具体的にどんな方法があるのかを考えていけるようにする。一人ひとりがしっかりと考えを持てるよう、資料・グラフを用意し、前の時間までに自分の考えを練る時間を十分にとると同時に、グラフや資料の読み取りが苦手な児童については、個別に声をかけていく。その後「考えを交流していく中で、

なるべく輸入に頼らない食生活に結びつきそうな考え、単純には結びつかない考えなど様々出てくると考える。後者の意見もそのままにするのではなく、考えを付け足していくことでみんなで考えを深めていく姿をひびき合いの姿としたい。食料自給率を上げるためには、誰かがやってくれればいい、自分に出来ることはない諦めてはいけない。この学習を通して、小さなことであっても、一人ひとりの行動や意識の変化が消費を拡大させ、食料自給率を上げていくための力になるという思いを持てる様にしたい。生産することも消費することもどちらも大切だといくことに気づき、少しでも食に対する意識を変えていけたらと思う。

5 単元構想 事項参照

6 本時について

本時の目標「なるべく輸入に頼らないで食べていくためにはどうしたらよいか。」について話し合うことを通して、考えを深めることができる。

学習活動	主な支援・留意点【評価】
なるべく輸入に頼らないで食べていくためにはどうしたらよいか。 ○生産(作ることに限して) 農家を増やす ・高齢者ばかりで、若者が少ない。 ・農業をする人を増やして生産量を増やす。 ・農業の良さを伝えて、若者を増やす。 農地を増やす ・耕作放棄地がたくさんある。 ・耕作放棄地を利用して、農作物を作る。 クローン技術 ・天候に左右されない。 ・質の高いものが作れる。 ・生産量が増える。△安全性 遺伝子組み換え ・天候や虫に強い作物ができる。 ・生産量が増える。 △安全性 ハイテク野菜工場 ・水やり、日光がコンピュータで管理されている。 ・農家の人が少なくてもできる。 ・ビルでもできるから土地がせまくてもできる。 △コストがかかる。 温室栽培 ・季節に左右されない。 ・温度を調整できるから、何度も収穫できる。 ・生産量が増える。 △コストがかかる。 家畜のえさを国産にする ・えさも輸入に頼っている。 ・飼料用米で、えさもなるべく国産にする。 家庭菜園 ・自分で作る。 消費(食べることに限して) 米粉・米 ・小麦の輸入が多いから、減らす。 ・米粉を使った料理にする。 ・米の消費量が増えて、小麦の消費量が減る。 和食 ・洋食から和食にしていく。 ・昔の食事は食料自給率が高かった。 ・食生活を見直すと健康にも良い。 食品ロスを減らす ・日本は、捨てている量が多い。 ・なるべく食べ物をむだにしない。 ・捨てなければ、その分輸入しなくてすむ。 ・残さず食べる。・必要な分買う。 国産のものを食べる ・地元の新産物を食べる。 ・旬のものなら国産でも安い。 ・飼料用米を食べる家畜の肉や卵を買う。 ○今日の授業のふりかえりをする。	●学習課題を確認し、「なるべく輸入に頼らない」ことにつながる意見かということ意識して話し合いに参加できるようにする。 ●本時までに、「今から何とかしないといけない。何か輸入に頼らない方法はないか考えたい。」という強い思いを持っている。自分が考えなかった意見がどういう方法なのかをきちんと理解できるように、子ども同士で付け足していけるようにする。 ●互いの考えで分かりにくいところは、聞き合ったり、フォローし合えるように促す。それでも分かり合えない時には、資料をみんなで見ることでできるよう画像を用意しておく。 ●絵や図を描きながら説明する子がいた時のためにホワイトボードを用意しておく。 ●発言がない児童には、意図的に指名し、自分の考えを出せるようにする。 ●科学技術やハイテク野菜工場は、メリットだけでなくデメリットがあることも押さえる。 ●「生産すること」「消費すること」に分けて板書し、考えを視覚的に整理できるようにする。 ●生産も消費もどちらも大切で、その中では自分で行動できるものもあることに気付けるようにする。 ◇友だちと考えを交流することを通して、「なるべく輸入にたよらない方法」について考えを深めている。 【思考・判断】

5. 単元構想 5年社会「これからの食料生産と食生活」(全9時間:本時7時間目)

単元のねらい

・食料自給率の低下、食生活の変化、食料の安全性、環境への配慮など、今日の食料生産取り巻く現状と問題について知り、これからの食料生産のあり方について自分なりの考えをもつことができるようにする。

2050年世界の人口が増えるとどんな困ることがあるかな①

・家が増え土地が減る。・土地がなくて農業が出来ず、食べるものが足りなくなる。・森林が切られて、空気が汚染されて、環境破壊が進む。・ゴミが増え
・食べ物足りなくなるかもしれない。・取れる量の伸び率が低くなっていて大変。・お米は余ってるから、今から食料を保存する。・食べたいもの食べれないのいや。・争いが起きそう。
・工夫しないと食料が足りなくなるか今からどう考えるべき。・日本も足りなくなるのか?

・人口増加が分かるグラフを用意し、視覚的に増加していくことが分かるようにする。
・「食料生産が人口増加に追いつかない」という記事を読み今後食料が足りなくなるかもしれないという意識が持てるようにする。
【食料危機ってなんだろう(文研出版発行)より】
・需要と供給の言葉の意味をおさえる。(知識・理解)

日本も食料危機になるのかな?

・日本は人口減ってるから大丈夫。・お米は余ってるし。・たくさん食べ物あるから大丈夫。・スーパーとかで中国産とかアメリカ産とかたくさんあるから日本も影響受けるかも。・工業では、日本は結構原料を輸入した。・原油とかばば輸入だった。→食べ物も輸入してるのかな?

日本は食料をどれくらい輸入しているのかな?②

・米は100%。・お米は消費が減って余ってるから。・大豆は7%で低い。大豆は日本のものなイメージなのに。お肉好きだけど9%。スーパーでオーストラリア産とか安いお肉を見る。・小麦も低い。・ほとんど輸入。・和食より洋食のほうが食料自給率が低い。
・国産品だけだと食べたいものが食べられなくなる。・輸入できなくなったら日本も食料危機になる。・なんで大豆は自給率が低いのかな?・他の国はどうなのかな?

・国産品だけで作った場合の洋食、和食の絵を提示し、そこから読み取れること、気付いたことを発表する。(関心・意欲・態度)(思考・判断・表現)
【ニッポン食べもの見つけ隊(農林水産省)より】
・資料の見方を確認し共通認識できるようにする。
・どの食品がどれくらい輸入しているのかを確認し、日本が多くを輸入に頼っている現状を知る。(知識・理解)
・食料自給率という言葉の意味をおさえる。(知識・理解)
「自分で食べるもののうち、自分の国でどれくらい賄えているか。」
・日本の食糧自給率の変化のグラフから分かることを読み取る。(観察・資料活用)
・輸入量の増加を分かりやすくするために棒グラフにして提示する。

・昔食料自給率高い。・だんだん下がっている。・人口が増えているのに、自給率が変わらないのは何でかな?・何で下がっているのか。

何で食料自給率はこんなに低くなったのかな?③

・米の消費量が減ってパンを食べるようになったから。・パンは小麦だから、輸入だね。・和食より洋食を食べるようになった。
・人口が増加したから。・作れなくなったから。・農家が減ったから。・外国産の方が安いから。
・食生活が変化して国内の食料生産だけでは賄いきれなくなった。・このままで大丈夫かな?

・教科書から、食料自給率が下がっていった理由を読み取る。

2050年輸入がストップしたらどうなるんだろう?④

・こわい。・食べたいもの食べられなくなるから困る。・値上がりする。・米と野菜だけとか無理。・他の国も自分の国が困ったら輸出してくれない。・外食しても、メニューが少ないし、値段も高い。・やっぱり今からどうするべきか考えたい。・作れないものもあるけど、輸入は減らしていきたい。

なるべく輸入に頼らないで食べていくにはどうしたらいいのかな?⑤⑥⑦(本時)

生産面
(農地を増やす)耕作放棄地を使えばいい。飼料用米を作る。
(農家を増やす)農業をする人が増えたら、食料生産は上がる。
若者を増やすために良さを伝える。
(科学技術)天候に左右されない方法を考えて、生産量を上げる。→クローン技術、遺伝子組み換え、ハイテク野菜工場、温室栽培 △安全性やコスト
(家庭菜園)自分で食べるものを自分の家で作る。
(えさを国産にする)えさの輸入量も減らしていく。国産の肉や卵が増える。

消費面
(国産のものを買う)国産の物が売れば、もっと作らなければいけない。・地元の新鮮なものを食べたい。・飼料用米を食べた家畜の肉や卵を食べる。
(和食)昔の食事は食料自給率が高かった。健康にもいい。洋食から和食にしていく。
(米・米粉)米が余っているから、小麦を使うパン、麺より米の消費量を上げたい。米粉料理にしたい。
(食品ロス減らす)食べ物をむだにしなければ輸入量は減らせる。残さず食べる。必要なものだけ買う。

・まずは予想し、その後資料等から根拠などを見つけていく。
・自作の資料コーナーを用意し、輸入に頼らないで食べていくためにはどうしたらいいかを考える手立てとする。
・児童が読み取れるよう、グラフや文などを分かりやすく作成する。
・自分の考えた答えの根拠となる図やグラフなどを提示し、どうして輸入に頼らないことにつながるのかを明確にして話せるようにする。(観察・資料活用)

食料生産と食生活のことについてもっと調べてみよう。⑧⑨

・日本はどうなものを輸出しているのか。
・TPPという言葉をニュースで聞いたけど、どういう問題なんだろう。
・関税ってなんだろう。
・小田原で食料生産について取り組んでいることはあるのかな?
・食の問題についてもっと調べて、みんなで伝え合おう。

・輸出にも目を向け、貿易について考えていけるようにする。その際TPPについても触れるようにする。
・他国との関わりも含め、これからの我が国の食料生産の将来的なあり方について考えようとしている。(関心・意欲・態度)

7 実践を終えて

(1) 本時に至るまでの経過

単元のスタートは「2050年世界の人口が増えるとどんな困ることがあるかな。」と世界的に今後人口が増加していくことが分かるグラフを提示するところから始まった。子どもたちからは、「土地がなくなる。」「環境汚染が進む。」「食べ物が足りなくなる。」など様々な考えが出てきた。そして、「食糧生産が人口増加に追いつかない」という記事を見せ、今後食料が足りなくなるかもしれないという意識を持てるようにした。しかし、日本は人口は減っていくし、工業や農業の学習から生産力が高いと思っているため「日本には関係がないだろうな。」と考える児童が多かった。そこで、日本の食品別の食料自給率が分かる資料を見ていった。すると、日本が多くを輸入に頼っている現状を知り、一気に自分たちの問題となってきた。「どうしてこんなに自給率が低いのか。」「輸入できなくなったらどうするんだろう。」「自分たちで食べていくことはできないのかな。」と子どもたちが様々な疑問がもち、調べ学習へとつながった。

(2) 本時での様子

本時の課題は、「なるべく輸入に頼らないで食べていくためにはどうしたらよいか。」だった。色々な資料を読み込み、事前に方法をそれぞれがまとめていたので、「早く自分が見つけた方法を伝えたい。」「自分が見つけた以外の方法はどんなものがあるんだろう。」と話し合いたい思いが溢れていた。一人で考えている時には思いつかなかったことや、何となく考えた方法だけれど、これで本当に輸入に頼らないことにつながるのかなど、この話し合いを通して解決できたらと思っていた。結果、事前にかけていたこともあり、たくさんの意見が出てきた。それぞれが付け足しながら、また分からなければ聞き返しながら子ども同士で話し合いを進める姿が見られた。そして、「どうしてこんなに色々な方法があるのに、日本の食料自給率は低いままなんだろう。」という話し合いにつなげた。子どもの振り返りには、「まだこの方法を知らない人がたくさんいるから広めたらいい。」「分かっているけど、食べ残しをしているからだ。」「もっと研究途中のものを考えていかなければならない。」など様々な意見が出ていた。

(3) 単元を通しての成果と課題

〈成果〉

- ・子どもにとって切実な課題になっていたように思う。「このままだと将来の日本は食料危機になるかもしれない。」という思いを一人ひとりが強く持つことができ、休み時間なども進んで友だちと意見交換したり、自主学習で調べたりする姿が見られた。子どもの興味関心、思いを見取り、子どもの思考の流れに沿った授業展開を心がけることができたことは成果であると思う。子どもの疑問から「次の時間はこれを考えていこう。」と課題を決められたことで、与えられたものをこなすのではなく、自ら学ぼうとする姿勢が身についてきたのではないかなと思う。
- ・子どもが調べ学習に使っていた資料は、教師側が厳選したものであり、子どもたちにとって分かりにくい資料に対しては、事前に手直しをして、一人ひとりが考えを持ちやすくなるよう配慮した。その結果、たくさんある資料の中から自分なりに必要な資料を選び、一生懸命試行錯誤しながら考えを持つ姿が見られた。
- ・話し方、聴き方については、日々の授業でも繰り返し指導してきた。今回の授業でも子ども同士で話をつなげることができていたと思う。分からないことを素直に分からないと言える雰囲気や、よく分からない発言に対し、すぐに教師が出るのではなく子ども同士で補足説明をしたり、例を出したりすることで話を自分たちで理解しようとする姿も育っていると思う。

〈課題〉

- ・解決したい問題という思いが強かったため、調べた内容も一人ひとり濃いものになっていた。それに伴い、伝え合う時間も多くなってしまい、ひびき合いというより調べたことを発表する時間が長くなってしまった。うまく板書を整理し、時に子どもに意見に立ち止まり、メリット・デメリットに注目して話し合っていけば、ひびき合いにもっとつながっていったと考える。子どもたちで話し合いを進めていくことも大切だが、教師の出所を見極めていくこと、子どもの話し合いを見やすい形で板書に残すことでよりよいひびき合いにつながると思った。